

2017年(平成29年)

10月20日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411(代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>**■概況**

10/5~10/11のNYMEX・WTIは、49.29~51.30ドルの範囲で推移した。

10月12日は、国際エネルギー機関(IEA)月報が2017年第3四半期の需要の弱さを指摘したことから、売りが先行、昼前の米エネルギー情報局(EIA)の最新原油在庫週報で同270万バレル減と市場予想(同200万バレル減)を上回る取り崩しが報告されたことで、やや戻しものの、4日振りに反落した。11月限の終値は前日比0.70ドル安の50.60ドルだった。週末13日は、イラク政府とクルド人自治政府の対立激化により、キルクーク油田からの原油供給に懸念が出て来たこと、トランプ大統領がイランの核合意順守を認めないとして、議会に制裁発動の検討を要請したことなどの地政学リスクの高まりから、反発した。同日のベーカーヒューズ社による、米国内石油掘削リグ稼働数は743基(前週比5基減)で2週連続減少との発表もこれを後押しした。11月限の終値は前日比0.85ドル高の51.45ドルだった。

週明け16日は、週末から続く地政学リスクの高まりを反映して、続伸した。16日未明、イラク政府軍はキルクークを制圧したが、クルド自治政府による原油輸出は継続されていることが判明し、上げ幅を減少させた。11月限の終値は前週末比0.42ドル高の51.87ドルだった。17日は、地政学リスクを意識した買いが先行したものの、高値圏での利益確定売りも出て、ほぼ横ばいだった。11月限の終値は前日比0.01ドル高の51.88ドルだった。18日は、地政学リスクの高まりに加え、EIAの米国在庫週報の予想を上回る原油在庫の取り崩しを背景に、4営業日続伸した。11月限の終値は前日比0.16ドル高の52.04ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(11月渡し)は、前週54.00~55.10ドルの範囲で推移した。10月12日54.90ドル、13日54.90ドル、16日56.00ドル、17日56.00ドル、18日は56.20ドルで推移した。

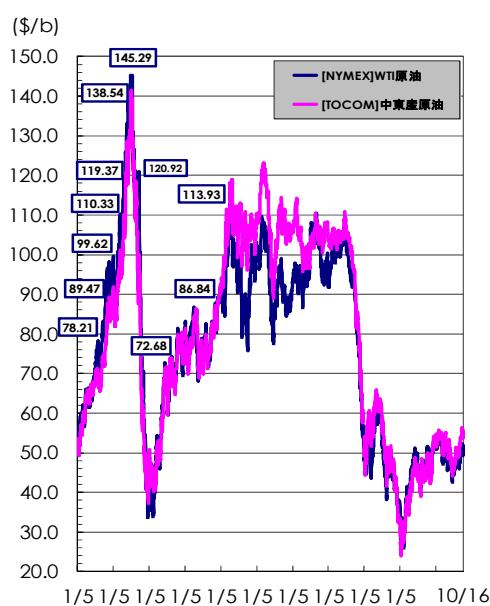
為替は、前週112.31~112.90円の狭い範囲で推移した。10月12日112.45円、13日112.29円、16日112.08円、17日112.24円、18日112.21円で推移した。

財務省が19日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、9月下旬の原油輸入平均CIF価格は、35,928円/klとなり、前旬を511円上回った。ドル建てでは52.16ドルで前旬比0.70ドル高。為替レートは1ドル/109.51円。また、同日発表の貿易統計(速報・月間ベース)によると、9月の原油輸入平均CIF価格は、35,472円/klとなり、前月を1,360円上回った。ドル建てでは51.51ドルで前月比2.56ドル高。為替レートは1ドル/109.48円。

主要元売会社の10月第4週に適用する卸価格は、ガソリンが0.5円の値下げ・据え置き・1.0円の値上げに分かれたが、軽油と灯油は全社据え置きとなった。原油価格はやや値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油調達コストはわずかに値上がりした。

そのような中で、10月16日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.6円の値上がり、軽油は同0.5円の値上がり、灯油は同0.4円の値上がりだった。ガソリンは5週連続の値上がり、軽油も5週連続の値上がりし、灯油は4週連続の値上がりだった。この週(10月第3週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリンは1.0円の値下げと据え置きに分かれ、軽油と灯油は全社据え置きとなった。

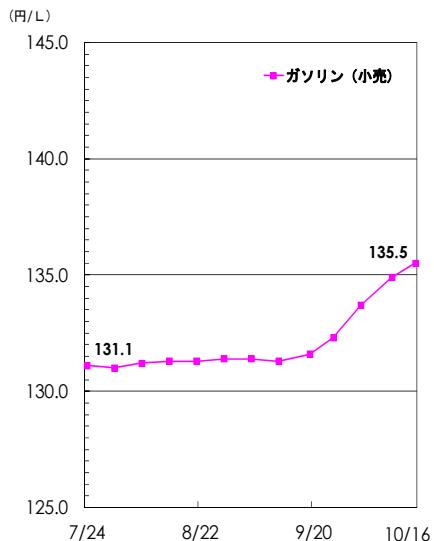
原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千㎘)	10/8 ~ 10/14	3,179	▼ -104	▼ -
	トップ稼働率 (%)	"	81.2	▼ -2.6	▲ -
	原油在庫量 (千㎘)	10/14	13,128	▼ -319	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	10/16	55.50	▲ 1.99	▲ 6.6
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	10/16	51.87	▲ 2.29	▲ 1.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月下旬	52.16	▲ 0.70	▲ 6.64
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	35,928	▲ 511	▲ 6,758
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.51	▼ -0.10	▼ -7.64
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/16	113.08	▲ 0.68	▼ -7.83



ウィークリー オイル マーケット レビュー 17第27号

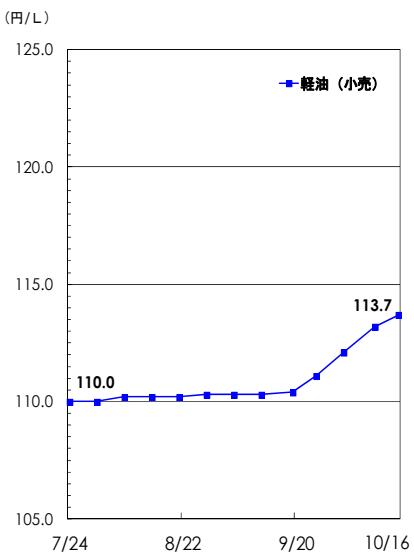
ガソリン		今週		前週比	前年比
需給		10/8 ~ 10/14	986	▼ -22	▲ -
生産		"	n.a.	n.a.	n.a.
輸入		"	888	▼ -115	▼ -
出荷		"	42	▼ -5	▲ -
在庫		10/14	1,694	▲ 56	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/10 ~ 10/16	53.9	▼ -0.4	▲ 9.0
先物	[期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	10/10 ~ 10/16	54.0	▲ 0.7	▲ 9.8
	(TOCOM/中部)	10/16	54.2	▲ 1.5	▲ 10.5
小売 [週動向] (資工庁公表)		10/16	135.5	▲ 0.6	▲ 10.9

*※業転、先物価格は税抜き価格

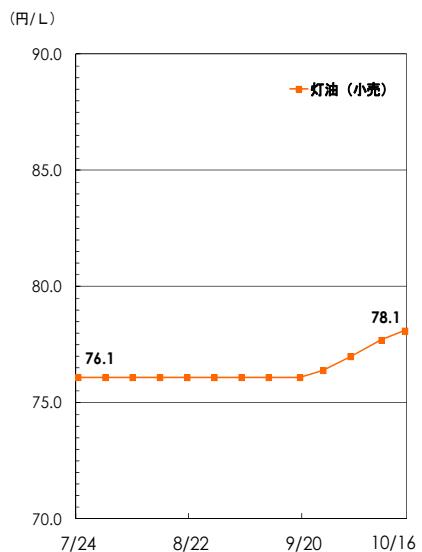


軽油		今週		前週比	前年比
需給		10/8 ~ 10/14	632	▼ -162	▼ -
生産		"	n.a.	n.a.	n.a.
輸入		"	595	▼ -56	▼ -
出荷		"	0	▼ -51	▼ -
在庫		10/14	1,446	▲ 37	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/10 ~ 10/16	53.2	▲ 0.2	▲ 12.1
先物	[期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	10/10 ~ 10/16	50.0	► 0.0	▲ 9.0
	(TOCOM/中部)	10/16	-	-	-
小売 [週動向] (資工庁公表)		10/16	113.7	▲ 0.5	▲ 10.0

*※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週		前週比	前年比
需給		10/8 ~ 10/14	315	▲ 9	▲ -
生産		"	n.a.	n.a.	n.a.
輸入		"	188	▲ 79	▼ -
出荷		"	0	► 0	▼ -
在庫		10/14	2,721	▲ 127	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/10 ~ 10/16	54.8	▲ 0.1	▲ 13.6
先物	[期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	10/10 ~ 10/16	54.2	▲ 0.1	▲ 10.1
	(TOCOM/中部)	10/16	55.1	▲ 0.5	▲ 11.7
小売 [週動向] (資工庁公表)		10/16	78.1	▲ 0.4	▲ 13.5



■ 関連情報

1 海外/原油

10月18日のNYMEX市場WTI原油は、イラク政府軍によるクルド自治区のキルクーク油田地帯制圧の発表、キルクークからのトルコ経由パイプライン通油量（通常日量約60万バレル）半減の報道、また、米国トランプ政権とイラン政府の核合意を巡る対立激化など、地政学リスクの高まりを反映して、4営業日続伸した。米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報によると、最新週の原油在庫は前週比570万バレル減と市場予想（420万バレル減）を上回る取り崩しになったが、ガソリン在庫は90万バレル増と市場予想（30万バレル増）を上回り、中間留分も取り崩し予想に反して50万

バレル増加し、上げ下げ双方の見方があった。11月限の終値は前日比0.16ドル高の52.04ドルと、9月27日（52.14ドル）以来の高値を付け、12月限の終値は前日比0.15ドル高の52.26ドルだった。

EIAによると、10月16日時点のガソリンの小売価格は前週比1.5セント値下がりの1ガロン2.489ドル（74.3円／㍑）となつた。ディーゼルは前週比1.1セント値上がりの2.787ドル（85.6円／㍑）。ガソリンは5週連続の値下がり、ディーゼルは2週振りの値上がり。

2 国内/製品需給 （1）出荷

石連週報によれば、10月8日～10月14日に休止したトップ一能力は39.5万バレル/日で、前週に対して10.6万バレル/日増加した（全処理能力は351.9万バレル/日）。

原油処理量は317.9万㎘と、前週に比べ10.4万㎘減少。前年に対しては12.8万㎘の減少。トップ稼働率は81.2%と前週に対して2.6ポイントの減少、前年に対しては3.4ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、軽油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/2.2%減、ジェット/10.0%増、灯油/2.8%増、軽油/20.4%減、A重油/0.4%増、C重油/29.6%増。今週のC重油の輸入は6.9万㎘（前週比0.6万㎘増）。軽油の輸出は0.0万㎘（前週比5.1万㎘減）。

出荷（輸入分を除く）は、前週比ではガソリン、軽油、A重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比では、全油種で減少となった。

ガソリンの出荷は88.8万㎘（前週比11.5%減）と2週振りで前週比、前年比で減少となり、2週振りで100万㎘を下回った。

ジェット8.5万㎘（前週比45.6%増）、灯油18.8万㎘（前週比73.0%増）、軽油59.5万㎘（前週比8.6%減）、A重油17.3万㎘（前週比12.4%減）、C重油22.5万㎘（前週比7.0%増）。

(単位：千㎘)

	今週 (10/8 ~ 10/14)	前週 (10/1 ~ 10/7)	前週比
ガソリン	888	1,003	▼ -115 (-11%)
ジェット燃料	85	59	▲ 26 (44%)
灯油	188	109	▲ 79 (72%)
軽油	595	651	▼ -56 (-9%)
A重油	173	198	▼ -25 (-13%)
C重油	225	211	▲ 14 (7%)
合 計	2,154	2,231	▼ -77 (-3%)

※今週出荷量＝（前週末在庫+今週生産+今週輸入）－（今週輸出+今週末在庫）

2 国内/製品需給 （2）在庫

10月14日時点の在庫は、全油種で積み増しとなった。前年に対しては、ジェット、灯油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは169.4万㎘、前週差5.6万㎘増。前年に対しては19.0万㎘多い。

灯油は272.1万㎘、前週差12.7万㎘増。前年に対しては11.6万㎘少ない。

軽油は144.6万㎘、前週差3.7万㎘増。前年に対しては3.4万㎘多い。

A重油は73.1万㎘、前週差1.7万㎘増。前年に対しては1.3万㎘多い。

C重油は204.6万㎘、前週差3.5万㎘増。前年に対しては0.7万㎘多い。

(単位：千㎘)

	今週 (10/14)	前週 (10/7)	前週比
ガソリン	1,694	1,638	▲ 56 (3%)
ジェット燃料	960	938	▲ 22 (2%)
灯油	2,721	2,594	▲ 127 (5%)
軽油	1,446	1,409	▲ 37 (3%)
A重油	731	714	▲ 17 (2%)
C重油	2,046	2,011	▲ 35 (2%)
合 計	9,598	9,304	▲ 294 (3.2%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月10日から16日までの原油コストは、原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、わずかに原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン107円台でやや軟化、軽油53円台でほぼ横ばい、灯油54円台でほぼ横ばいに推移した。

海上スポット価格は、ガソリン109～110円台で軟化、軽油54～55円台で堅調、灯油54円台で堅調に推移した。

先物価格は、ガソリン107～108円台で堅調、軽油50円台で横ばい、灯油54円台で堅調に推移した。元売の卸価格は、ガソリンが0.5円の値下げ・据え置き・1.0円の値上げに分かれ、軽油・灯油は全社据え置きだった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月10日から10月16日の原油コストはわずかに値上がりしたが、製品スポット市況は、陸上ガソリンが値下がり、海上灯油と先物軽油が横ばいになった以外は、全油種でわずかに値上りした。

10月第4週(10月19日～25日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(10月10日～16日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.4円の値下がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油は0.2円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.1円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は0.2円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.7円の値上がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油が横ばいだった。原油価格は僅かに値上がりし、為替はほぼ横ばいで、原油コストは僅かに値上がりだった。

10月第4週の大手元売の卸価格は、0.5円値下げ・据え置き1.0円値上げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

		(単位:円/㍑)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (10/10～10/16)	前週 (10/3～10/9)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	53.9	54.3	▼ -0.4
	灯油	54.8	54.7	▲ 0.1
	軽油	53.2	53.0	▲ 0.2

		(単位:円/㍑)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (10/10～10/16)	前週 (10/3～10/9)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	54.0	53.3	▲ 0.7
	灯油	54.2	54.1	▲ 0.1
	軽油	50.0	50.0	► 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/10～10/16実績値) (単位:円/㍑)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.4	▲ 0.7	▲ 0.2
灯油	▲ 0.1	▲ 0.1	▲ 0.1
軽油	▲ 0.2	► 0.0	▲ 0.1
A重油	▲ 0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月16日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.6円高の135.5円を付け本年最高値を2週連続で記録、軽油は同0.5円高の113.7円、灯油は同0.4円高の78.1円だった。ガソリンは5週連続の値上がり、軽油も5週連続の値上がり、灯油は4週連続の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がり率は41都道府県で、横ばいは4県、値下がりの県は2県だった。全国最安値は埼玉県の130.2円(同横ばい)、次が千葉県の131.6円(同0.1円高)、最高値は沖縄県の144.9円(同0.6円高)だった。最も値上がりしたのは、4.0円高の石川県(135.8円)だった。

先週の原油コストは値下がりし、元売会社も卸価格を値下げした社が多かったが、過去の値上げ分の転嫁が進み、5週

連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストはわずかに値上がりした。元売会社の卸価格は、ガソリンが0.5円の値下げ・据え置き・1.0円の値上げに分かれ、軽油・灯油は全社が据え置きとなった。次週(10月23日)のガソリンの小売価格は横ばい、灯油は小幅な値上がりが予想される。

(単位:円/㍑)					
(資源庁公表) [週動向]	今週 (10/16)	前週 (10/10)	前週比	直近高値	
小 売 価 格	レギュラー	135.5	134.9	▲ 0.6	08/8/4 185.1
	灯油	78.1	77.7	▲ 0.4	08/8/11 132.1
	軽油	113.7	113.2	▲ 0.5	08/8/4 167.4

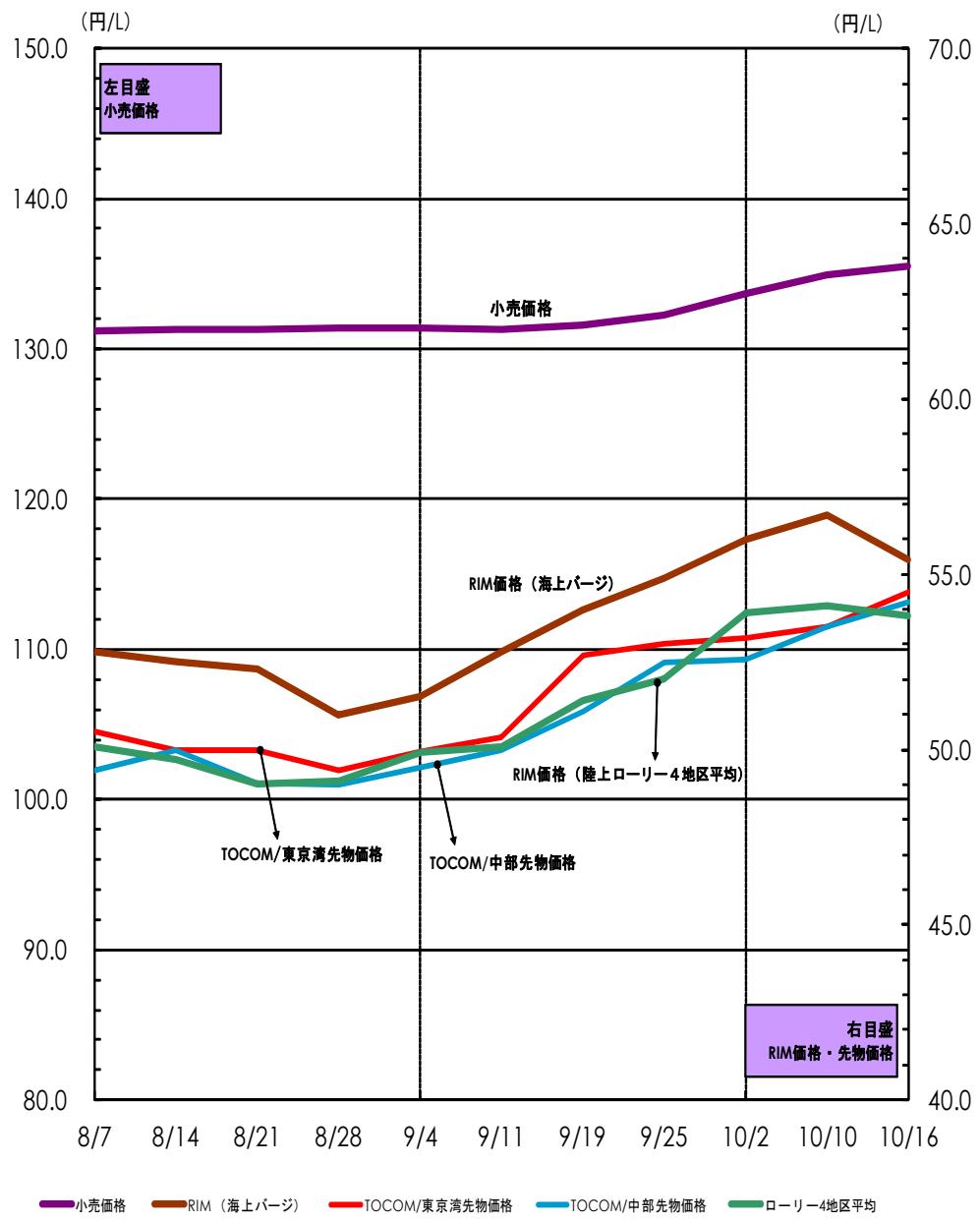
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/8/7 ~ 2017/10/16)



■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回（2017第28号）の公表は、10/27（金）14:00です。

「セルフSS出店状況」（平成29年3月末現在）は、7月26日（水）14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate : 中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LARRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁HPに掲載）。毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。